

セラフィムの靈言から学ぶ：「天体接近と地球の危機」 担当:石田 2024年3月31日

予備情報 - R・A ゴールの慈悲より 「メシアへの修行星、そこでは、欲望を捨てる修行がなされる。先ず『足るを知る』が初めだ。次に『魂の修行場が存在していることへの感謝』だ。」

主との対話より：当会の論『人類の悪想念が天変地異の原因』VS 石田理論『地震爆発論』との接点はどこにあるのだろう？魂修行させて頂ける感謝が無い時代には、地球意識に失望感と疲労感が発生、地殻が疲労破壊、水素の爆発による巨大地震が発生。（裏面の注で解説）

セラフィム：「以上のこととは、もう少し 天体が近づいてきたとき にお話した方が良い。」ニビル？

セラフィム（映画でタコに変身、女優吉高由里子）の靈言（2018年5月11日収録）：

1 人間を救う天使と主を護る天使（熾天使）とある。パングル（パンダに変身）とセラフィムは熾天使で、上級階層の天使。力を合わせなければいけない時は一緒にやるが、「交替可能性」はある関係かな？北条政子の時に、一緒に出た。（頼朝の寵女「亀の前」？家庭争議）

2 主は“自分が仕事をするための道具”も創られた。名の知られた天使のほかに十二天使が居て、主の直属の天使である。謎に包まれた存在で、どの宗教でもつかみかねている。

月読の靈言：二千以上、日本の闇の世界と戦い続けた人たちが居る。表には姿を見せないが、連綿として色んな流派を継ぎ、闇の世界（神道を曲げた？）と戦ってきた、想定外も。武士道、剣道、柔道？

3 『大勢の人に影響力を与えた』ということが、次の靈的なパワーの根源になる。幸福の科学の流れの中で自分が必要とされる時期が来れば、姿を現せると思う。もう少しだ。

4 自分たちの力をなら本当は核ミサイルの軌道だって変える力はある。主を護るためならやる。現代人が奇跡と思っているものより大きな力を持っている。今回は失敗じゃないのか？

5 HS 全体がもう一段大きくなないと、（その力を）吸い込めない。もう一段大きくなれ。

6 熾天使はある意味で“隠密”なので、あまり存在を知らないほうが動きやすい。永遠の仏陀：あなた方は、名声から遠ざかっているがよい。さまざまなる、この世的なる評価から遠ざかっているがよい。そのようなことに心を奪われて、真実の教えを聴かないならば、河原の芦のごとくに…。

7 主ご自身も、まだ自分の仕事がどこまで広がっているかはご存じないところもある。宇宙での仕事になったら地球人であることがネックになって、よく分からないこともある。

8 学問や journalism 的にもやっているが、まだ一部だ。もう一段の力を持つ必用がある。主の在世中に達成可能か？行く時にはただの数年で行く。何かで大きく勝たなければいけない。基礎力ができたら、なにか「大きな戦い」が起きると思う。その時に“地滑り的に大きな変動を起こすことが可能。世界が認めざるをえないところまで、きっと行くと思う。

9 「大きな戦い」で歴史が変わっていく時に（パングルと）よく居合わせることが多い。常識がガラッと崩れる時が来ると思う。その時、地上に出ていている部分も役に立つ。他にも“隠されたパネル”が各方面で存在する。もう少し天体が接近した時に話したほうが良い。

参考 惑星 X 説：木星、海王星、冥王に軌道の歪が見られ、未知の惑星 X が存在すると言われて来た。ニビル星説：ゼカリヤ・シッチンの靈言：ニビルは3600年周期で太陽を回っている。太陽系で未発見の最期の惑星。ニビル星人の多くは金星から逃れた種族で、地下に帝国が広がっている。葉巻型 UFO に乗って地球に来ている。地球を兄弟星と見ていて、一般的には平和を愛する人たち。ニビルの UFO は透明で、レーダーに映らず、普段地球人の目では見ることができない。女性地球人の子宮に胎児を植えつけて地球人として生まれ（カッコウみたい）、多くは無いけど、地球文明の進化に役立つような超天才を生み出している、ドクター中松など。旧約聖書にあるエゼキエルとして生まれた経験。

注:(石田昭著「地球の謎は解離水の爆縮で解ける！」2013年工学社刊)より
地球は中緯度帯で疲労破壊が発生しやすい:その理由説明

「中緯度帯」に「巨大地震」が集中する理由

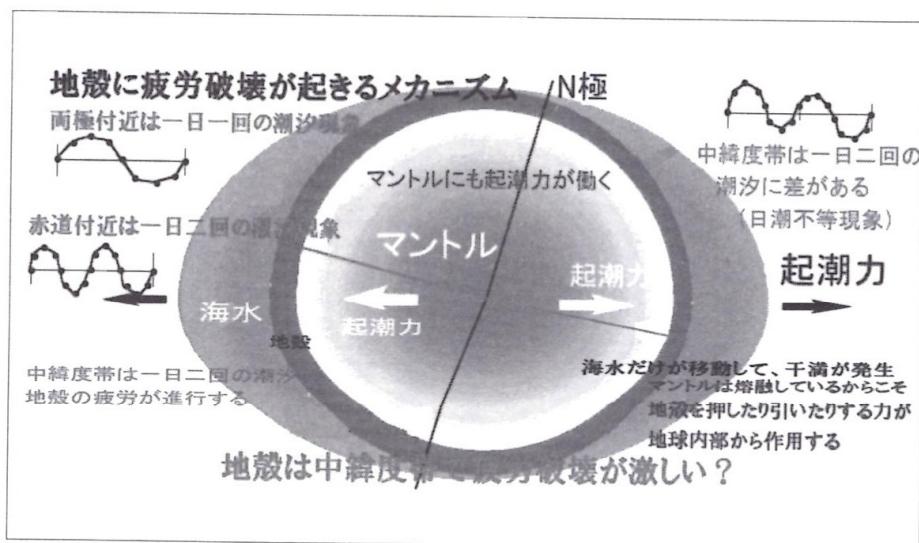


図4-16 「地殻」に「疲労破壊」が起きるメカニズム

図4-15を見ると、「両極付近」および「高緯度帯」では、「大きな地震」が起きていません。

これは、「極地方」では、「潮汐の干満」が1日1度(=回潮)しか起きないとから推定できるように、「疲労破壊」が発生し難い場所“だと考えられます。

また、「中緯度帯」では、1日2回の「満潮」と「干潮」の「潮位差」が違う(日潮不等)ことで、規則的な「回潮」である「赤道付近」よりも、「疲労度」が大きくなると考えられます。

だとすれば、「地殻」に作用する「繰り返し荷重」としては、「赤道付近」や「極地方」よりも、過酷な条件になります。

それが原因となり、「疲労破壊」が進行しやすい場所“となっていることが推察できます。

*